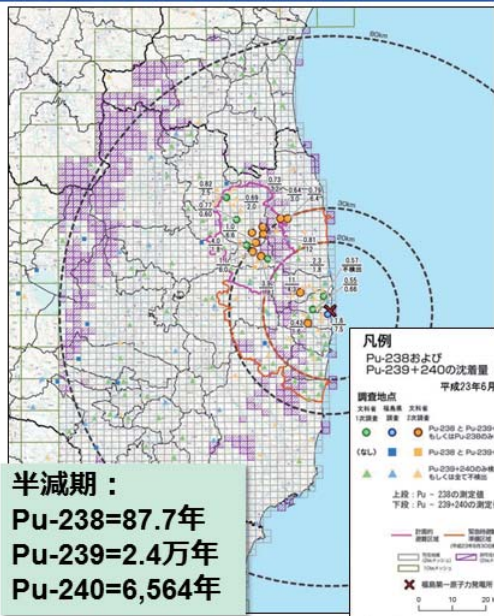


その他の放射性物質
の沈着状況

プルトニウム、ストロンチウム（福島県東部、広域）

プルトニウム238、239+240の沈着量
(平成23年6月14日時点)



半減期：
Pu-238=87.7年
Pu-239=2.4万年
Pu-240=6,564年

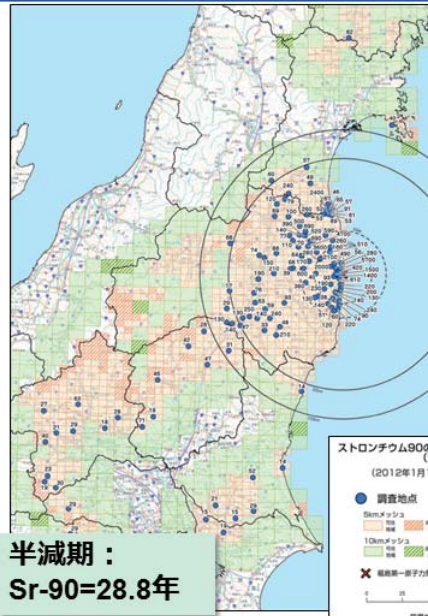
凡例
Pu-238および
Pu-239+240の沈着量 (Bq/m²)
平成23年6月14日時点

調査地点
資料名 福島県 資料番号
測定値 調査 測定値
● Pu-238とPu-239+240の測定値
○ 過去(平成11~21年度)の測定値(事故由来)
(なし) ● Pu-238とPu-239+240の測定値
▲ Pu-238+240の測定値
△ Pu-239+240の測定値
上段: Pu-238の測定値
下段: Pu-239+240の測定値

○ 調査地点
● 過去(平成11~21年度)の測定値(事故由来)
▲ Pu-238+240の測定値
△ Pu-239+240の測定値
上段: Pu-238の測定値
下段: Pu-239+240の測定値

× 福島第一原子力発電所

ストロンチウム90の沈着量
(平成24年1月13日時点)



半減期：
Sr-90=28.8年

ストロンチウム90の沈着量
(Bq/m²)
(2012年1月13日時点)

● 調査地点
○ 過去(平成11~21年度)の測定値(事故由来)
▲ Pu-238+240の測定値
△ Pu-239+240の測定値
上段: Pu-238の測定値
下段: Pu-239+240の測定値

× 福島第一原子力発電所

Bq/m² : ベクレル/平方メートル

左図：文部科学省報道発表 平成24年8月21日（平成25年7月1日一部訂正）、
右図：文部科学省報道発表 平成24年9月12日（平成24年9月19日、平成25年7月1日一部訂正）

平成23年6月及び平成24年1月に行われた国の土壌調査では、東京電力福島第一原子力発電所から100km圏内及びその圏外の福島県西部の土壌試料が採取されました。

本調査で確認されたプルトニウム238、239+240の沈着量は、1か所で検出されたプルトニウム238の沈着量の値を除き、いずれの箇所においても、事故前の平成11～21年度までの全国で観測されたプルトニウム238、239+240の測定値の範囲（過去の大気圏内核実験の影響による範囲）に入るレベルでした（上巻P176「核実験フォールアウトの影響（日本）」）。

また、今回の調査で事故前に観測されたプルトニウム238の沈着量の最大値を超えた1か所のプルトニウム238の沈着量は、事故前のプルトニウム238の沈着量の最大値の1.4倍程度でした。なお、平成11年度から平成21年度までの11年間の全国で観測されたプルトニウム238とプルトニウム239+240の沈着量の比率の分布から、今回の調査でプルトニウム238とプルトニウム239+240の沈着量の比率が0.053を超える箇所は、東京電力福島第一原子力発電所の事故由来の可能性が高い箇所とし、マップ上において○で記載してあります。

ストロンチウム90については検出されたものの、東京電力福島第一原子力発電所の事故前の平成11～21年度の全国調査の観測値と比較したところ、いずれの調査箇所でも過去の大気圏内核実験の影響による範囲内にありました。また、多くの調査箇所におけるストロンチウム90の沈着量は、セシウム137の沈着量の1,000分の1程度であることが確認されました。なお、ごくまれにストロンチウム90の沈着量がセシウム137の沈着量の10分の1程度まで変動している場合があることが確認されています。

本資料への収録日：平成25年3月31日

改訂日：平成30年2月28日